

千代田区基本構想懇談会 第2回全体会 議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日時
令和4年8月29日（月）18時～20時30分
- 2 会場
千代田区役所4階 401・402会議室
- 3 出席状況
学識経験者4名（欠席者無し）
区民 17名中1名欠席
- 4 千代田区
古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告
 - ・第1回部会の振り返り
 - (1) 千代田区の良いところ・好きなところ
 - (2) めざすべき将来像について
 - (3) 分野別の将来像について
 - ・ヒアリング結果等について
 - (4) 団体関係ヒアリングの結果について（別紙1）
 - (5) 意見公募の結果について（別紙2）
 - (6) 職員アンケートの結果について（別紙3）
- 4 説明
 - (1) 提言書について
- 5 協議
 - (1) めざすべき将来像について
 - (2) 分野別の将来像について
 - (3) その他
 - アはじめに・区と基本構想の役割
 - イ基本構想の実現に向けて
 - ウ構造等について
- 6 今後の予定
- 7 閉会

【配付資料】

- ・資料1 : 第1回部会の振り返り・協議事項
- ・資料2 : （仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・別紙1 : 団体関係者ヒアリングの結果について
- ・別紙2 : 意見募集の結果について
- ・別紙3 : 職員アンケートの結果について

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 報告

・第1回部会振り返り

(1) 千代田区の良いところ・好きなところ

(2) めざすべき将来像について

(3) 分野別の将来像について

◎事務局

・資料1に基づき説明

○学識経験者

・生涯学習は、すべての区民が学び続けられる、というニュアンスを強調できると良い。

・ヒアリング結果等について

(4) 団体関係ヒアリングの結果について

◎事務局

・資料1、別紙1に基づき説明

(5) 意見公募の結果について

◎事務局

・資料1、別紙2に基づき説明

(6) 職員アンケートの結果について

◎事務局

・資料1、別紙3に基づき説明

4 説明

(1) 提言書について

◎事務局

・資料1に基づき説明

5 協議

(1) めざすべき将来像について

○学識経験者

・資料1に基づき説明

○区民

・団体関係ヒアリングや意見公募等の結果は、しっかりと読み込んだ上で意見を発言したい。
懇談会当日に資料配布され、短時間で資料を読みこんだ上で、発言することは難しい。

○区民

- ・千代田区らしさを表現するためには、具体的な地名を取り入れた表現とすると良い。ただし、どの地名を具体的に盛り込むべきなのかについては慎重な議論が必要である。

◎事務局

- ・提言書を作成するにあたり、委員の皆様の意見を一つに集約することは困難であるため、様々な意見をいただきたい。

○区民

- ・「共生」とあるが、例えば、たばこについては、喫煙者と非喫煙者の共生はどのような事を想定しているのか。また、「多様性」は包括的な表現であり、今回の構想において多様性とは何を想定しているのか、明示すべきなのではないか。まちづくりについては、現在の区の方針性は、人口を増やすために、ビルを高層化することに一本化されている。また、千代田区の「緑」は、皇居周辺の緑地や街中の街路樹が主であると思うが、街路樹への区の認識はどうなっているのか。そのような問題も含め、将来的な千代田区の在り方を示してほしい。

○区民

- ・共生については、隣の区との連携が大切であると感じている。例えば、霞が関、永田町、皇居、丸の内のようなエリアは日本のトップとしての自負を持って良いと思うが、特徴の似ている他区との連携を強化しても良いのではないかと。例えば、神田エリアの雰囲気は墨田区と似ている。また大学が多いという点では文京区と特徴が似ている。そういった特徴の似ている他区との連携を強化するべきではないか。また、有事の際に、国や東京都との連携が強い区になると良いのではないかと。

○区民

- ・ジェンダーの観点が抜けているように感じる。団体関係者ヒアリングのp.9にも、「ジェンダーという言葉が出てこないことにも違和感を覚える」とある。また、意見公募結果においても、性風俗店に対する規制を求める意見が上がっている。前回のくらしとまちづくりの部会でも、秋葉原が新しい風俗街と思われているのが悲しいと問題提起した。日本はジェンダーギャップ指数が低い、千代田区は外国人が多く訪れる街なので、海外に恥ずかしくないような取り組みを取り入れてほしい。

○区民

- ・職員アンケートの結果にも記載されているが、モダンという表現はわかりにくい。神田明神ではアニソン盆踊りを実施しており、日本の伝統と現代文化の融合であるように感じ、そこが千代田区の良さであると感じた。

○区民

- ・「モダン」は「現代」という意味で使われていると思われるが、歴史の区分としては、現代は、「ポストモダン」と呼ばれることもあるため、分かりづらく、別の表現に変えた方が良い。また、溶け合うという表現は、既にある文化や規範に、外から来た人たちを適応させるイメージがあるため、「共存」などの表現の方が良いのではないかと。

○区民

- ・なぜ「モダン」だけ、日本語ではなく外来語を使用しているのか。日本語で言い換えられると良い。また、「未来」のニュアンスを入れられると良い。また、溶け合うのではなく、それぞれの良いところを取り入れるイメージの方が良いのではないか。

(2) 分野別の将来像について

○区民

- ・分野別の将来像の「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」の中で、「こどもからお年寄りまで」という表現があるが、年齢だけでなく、人種や性別などの観点からも多様性を表現できると良い。

○区民

- ・区が多様性やジェンダーなどをどのように捉えているのか、しっかりと構想に示されたものに対して、懇談会の委員が意見を述べることで、双方向的な議論となり、懇談会も活気が出るのではないか。

○区民

- ・分野別の将来像のうち、「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」と「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」は千代田区の個性が感じられない。例えば、「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」については、財政力があること、「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」については、神田明神に集う様子などを反映出来たらよいのではないか。

○区民

- ・「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」で、IT化について触れてほしい。区のHPでは地元の祭りの情報などが見つからないことを問題に感じている。「人とのつながりを、ITを駆使して大切にし～」とすると、人とのつながりが広がるのではないか。

○区民

- ・ITを使える人とそうでない人の情報格差だけでなく、地元にながら根差していない人が地元の情報を取得できないという情報格差が起こっているため、地域情報の格差を無くしていくような要素があると良いのではないか。例えば、神田祭に参加したくても、自分がどこの町会に属しているのかもわからない。既存の地域コミュニティに入りづらい障壁をなくしてほしい。

○区民

- ・神田祭の区民パスを広報紙やホームページから取得できるようにすることで、区民としてお祭りに参加しているという意識を生み出すことができるのではないか。

○区民

- ・前回の部会で出た話だが、神田祭などの伝統を地域に広げるためにITのような現代的なツールを使うことが、伝統とモダンの融合の良い具体となるのではないか。分野別の将来像に千代田区らしさを出すためには、ビジネスの要素を打ち出しても良いのではないか。歴史と文化のあるまちは沢山ある一方で、ビジネスが集積しているのは千代田区が圧倒できる点である。「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」にビジネスの要素を追加しても良いと思う。また、「子どもからお年寄り」という表現は限定的で多様性を感じない。ダイバーシティ

ーアンドインクルージョンの考え方に沿い、多様な存在を認めるというニュアンスを追加できると良い。

○区民

- ・写真や絵で千代田区らしさを表現すると良いのではないかと。町会の様子を写真で紹介すると、「こうしたら地域を活性化できる」というイメージにつながるのではないかと。

○区民

- ・古い時代の千代田区と、現在の千代田区は様相が違い、住民も異なっている。歴史的な経過を踏まえて、今後の千代田区の将来像を示すべきではないかと。千代田区が考えている将来像は、言葉としては理解できるが、実態としてはどうなのか。今後千代田区の人口規模をどうしていくのか構想からは読み取ることが出来ない中で、まちづくりの議論をしても、今後も住みたいと思える千代田区をイメージすることができないのではないかと。構想策定にエネルギーを割いているが、本来は目指すまちの理念があり、その下に基本構想、基本計画、実施計画という段階を踏めば、スムーズなのではないかと。

◎事務局

- ・理念が見えないという意見に対しては、本日の資料 2 で基本構想のたたき台を示しているが、理念については、たたき台の各部分に盛り込んでいる。人口については、千代田区は当面、人口が増加すると推計されている。新しい基本構想では目標人口を設定せずに、想定される人口に対応していくこととする。現在の千代田区の人口は 6 万人を超えている中で、目標人口の適正な水準を設定することは難しい。仮に適正人口を設定したとしても、人口を増やすための施策は考えられるが、適正人口を超えた場合に人口を減らすための施策を打つことは難しいと考えている。

○区民

- ・千代田区の面積で人口を増やすためには、建物を高層化する他にない。区としては、高層の建物を今後も増やす方針なのか。基本構想たたき台は、庁内全体で検討したとのことだが、理念はどこなのか他部署に問い合わせると、それぞれで意見が異なっているようである。千代田区の理念が軸としてあれば、構想を策定することは困難ではないだろう。千代田区の理念は、「教育と文化のまち千代田区宣言」と「国際平和都市千代田区宣言」を基本に千代田区の自治を検討すれば良いのではないかと。また、自治は区民参画が前提であり、区民の賛成意見・反対意見をうまく調和させることで成り立つものであると考えている。

○区民

- ・一般的には人口は増加した方が良く考えるが、無尽蔵に高層ビルを建設すれば良いという話ではないため、バランスが難しいだろう。また、人口が増加するほど、安全であることがより大切になる。自然災害が多発している中で、千代田区は水害に対処できるのか疑問である。そのため、「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」の中に、これからの自然災害に対処すると同時に持続可能な社会を作ることの要素として加えられると良いのではないかと。

○区民

- ・単に転出・転入による人口の増加ではなく、出生率が上がると良いのではないかと。現在、千代田区には様々な子育てに関するサービスがあるが、自分が子どもを産む将来もそのようなサービスが持続しているのか不安に感じる。「ライフプランを構築しやすい」や「子どもを

産みたくなる」といった観点を「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」に盛り込んでほしい。

○区民

- ・ 3つの分野別の将来像の粒度感が異なっている。「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」は具体的だが、「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」・「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」は抽象的であるため、3つの分野別の将来像の粒度を揃えた方がよい。

○学識経験者

- ・ 文章の粒度は、そのまま議論の粒度にもつながる。将来像を具体化しすぎると長期的に活用しづらいものになることが懸念されるため、粒度感は揃える必要があるだろう。構想を長期的に使用するためには、今後生まれる子どもやこれから子ども産もうとしている人にも配慮すること、さらには、今は発言権を持たない未成年者の立場にも立って検討することも必要である。

○学識経験者

- ・ 千代田区は、エリアによって個性があることが特徴であり、懇談会の中でも委員の住居エリアによって、意見が異なっているようにも感じた。また、懇談会では、比較的、在住者の視点で議論をしているが、千代田区には昼間人口が多い地域もある中で、特定の地域には当てはまるが、別の地域では当てはまらないといったことが無いように構想を検討していく必要がある。

○学識経験者

- ・ 区民が主体的に発言し、トップダウンからボトムアップに変革するための議論が懇談会の場で展開されていくことを期待している。構想の「はじめに」の中で、「千代田の新時代を築く」とあるが、千代田の新時代とは具体的に何なのか考えることも重要であると考えます。

(3) その他

ア はじめに・区と基本構想の役割

イ 基本構想の実現に向けて

○区民

- ・ 「はじめに」の「千代田区は約 400 年にわたり・・・」という表現は間違っている。また、「子ども、女性、高齢者、障害者など」とあるが、ジェンダーマイノリティや外国人についても触れてほしい。「基本構想の実現に向けて」では、「国際都市東京の中心である千代田区として、国や文化などの多様性を尊重し」とあるが、ここでの多様性は日本人・外国人といった国籍を指していると思われるが、千代田区に既に存在するその他の多様性を無視しているように思われる。そのため、「はじめに」の多様性と同様にジェンダーマイノリティや障害者なども位置付けてほしい。

○区民

- ・ 「はじめに」が長すぎる。「私たちは～」以降の2段落だけでよいのではないかと。

○区民

- ・ 20年前と現在の大きな違いは、「多様性」、「国際化」、「IT化」であり、その3点が内包されていると良いのではないかと。

○区民

- ・「生み育つ」、「生まれ育つ」といった要素がこの構想では見受けられない。今後、千代田区として、転入で人口を増やしていくのか、それとも、千代田区で産まれる子どもを増やし、人口を増やしていくのか、区のスタンスを示した方が良いのではないか。

○区民

- ・昔から千代田区に在住している身として、これ以上人口を増やしてほしくないということを発言しているわけではないが、誰もが住みやすい社会として、千代田区の面積に対し、どの程度の人口が適切なのか構想で示してほしい。千代田区の子どもたちが、「空は四角い」と感じていることを知り残念に感じた。次の世代を産み育てるならば、面積に対する適切な人口が示されるべきなのではないか。

○区民

- ・区内で子どもが産まれることで人口が増加する考え方の方が望ましいと思う。

○区民

- ・高校授業料無償化や児童手当になどについては、千代田区民は所得制限で対象外となる人が多いと思う。対象外となってしまった人に対しても、都や国の施策とは別に、区の支援があるとありがたい。

○区民

- ・「はじめに」の「区民の命や健康を守る」については、区民ではなくとも区内で活動する人も含まれるようにすべきである。

○区民

- ・国で歯科健診の無償化が検討されているが、千代田区では以前から歯科健診の無償化施策は実施されており、それを国が模倣しているように感じた。同様に、モデルケースになれるような区を目指すという視点を区には持ってほしく、そのような内容を「はじめに」の中に入れても良いのではないか。

○区民

- ・社会的につながりが無い人についても触れた方が良いのではないか。

ウ 構造等について

○区民

- ・「次期計画の構造案」について、予算の前には計画があるはずなので、予算の概要ではなく「計画&予算の概要」とした方が分かりやすいのではないか。

◎事務局

- ・次期基本構想の下では、基本計画をなくし、中期的な取組みの方向性を「予算の概要」に記載していくため、「予算の概要」は、実態としては計画&予算に近づいていく。
- ・資料の構造を示す図で、三角形に記入されているものは資料名で、グレーの四角に記入されているものが具体内容である。
- ・「予算の概要」は、これまでは次年度の具体的な事業とその方針を記入していた。

○学識経験者

- ・「その他の指標」では、「各部門で所管する個別計画の中で～」とあるが、個別計画が図に記載されていない。

◎事務局

- ・個別計画は基本構想を補完するものと位置付けている。個別計画の中で、具体的な事業や数値目標を記載している。図で示すとすれば、基本構想と予算の概要の図がある横に位置付けられ、基本構想を補完するようなイメージである。

○学識経験者

- ・図に記載されていた方が分かりやすいので、記載することを検討していただきたい。

○区民

- ・興味のある区民にとっては、基本構想と予算の概要の関係は理解できるが、実際にはそこまで理解している区民はそれほど多いとは思えない。予算の執行の在り方に問題がある場合、区民の意見がどう反映されていくのか、図の中で位置づける必要があると考える。

○区民

- ・基本構想は今後見直さないのか。

◎事務局

- ・10年を目途に見直す予定である。また、社会情勢の変化や首長の交代などによっては、10年を待たずに見直すこともある。

○学識経験者

- ・構想の見直しの際にも、区民から意見をもらえる仕組みを構築できると良い。

○学識経験者

- ・社会情勢の変化に伴って見直すこともあり、その際には区民の意見も伺う旨を明記できると安心感があると思うので、ご検討いただきたい。

○学識経験者

- ・基本構想をどれくらいの期間使うのかが気がかりである。今後長期的に使うものとして、一つ一つの言葉遣いを慎重に検討する必要がある。例えば、「人生100年時代」という表現を使用しているが、どのような意味合いで使用するかなど検討する必要がある。また、SDGsとの関連については、SDGsの中には「責任」という言葉が使用されているが、基本構想においても「責任」という言葉を取り入れるのか、検討が必要である。

7 今後の予定

◎事務局

- ・参考資料2・3に基づき説明

8 閉会